

1 単元名 お年寄りといっしょにしよう ~干し柿作りに挑戦~

2 目標

- 干し柿作りを通して，高齢者に進んで，上手にかかわっていこうとする。(関心・意欲・態度)
- 高齢者とのよりよいかかわり方を考え，行動することができる。(思考・表現)
- 高齢者とふれ合うと楽しいことに気付くとともに，高齢者の良さや知恵のすばらしさに気付き，感謝や尊敬の気持ちをもつことができる。(気付き)

3 単元構想図

生活科の時間(23) 子どもの学びの姿(評価)	児童の意識の流れ	教科・領域 の学習
<p>1 干し柿作りに挑戦しよう。(2)</p> <p>地域の高齢者の方(1名)に講師を依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と一緒に渋柿を収穫する。</li> <li>・高齢者から干し柿づくりの手順を教わり，やってみる。</li> </ul> <p>干し柿の作り方を学ぶことを通して，高齢者と進んで接しようとしているか。</p> <p>2 高齢者とのかかわりを振り返ろう(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1の活動を振り返り，高齢者とのかかわりで気付いたことを話し合う。</li> </ul> <p>活動を振り返りながら，高齢者への気付きを深めたり，自分たちのあるべき姿を進んで考えたりしたか。</p> <p>3 地域の高齢者を招待し，干し柿作りをする計画を立てよう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動をして，会の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆招待状を書く。</li> <li>◆名札を作る。(自分用・高齢者用)</li> <li>◆分担を決める。(司会，言葉...)</li> <li>◆自己紹介を考える。</li> <li>◆お礼(プレゼント)を考える。</li> </ul> </li> <li>・自分たちの理想の姿を話し合い，「高齢者とのかかわりチェック表」を作る。後で自己評価することを知らせる。</li> </ul> <p>高齢者の立場に立って，意見を言ったり，準備を進めたりできたか。</p> <p>自分の理想の姿を考え，進んで発表できたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなかうまくむけないな。</li> <li>・おじいちゃんは上手だなあ。</li> <li>・干し柿の作り方が分かったぞ。</li> <li>・この次は自分で全部してみたいな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りは耳が聞こえにくいんだな</li> <li>・お年寄りは目が見えにくいんだな。</li> <li>・お年寄りはゆっくり歩くんだ。お年寄りに合わせて，手を引けば良かった。</li> <li>・お年寄りはひざや腰がよくない人が多いんだな。いすや座布団を用意すれば良かった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りの方が読みやすいように大きな文字で手紙や名札を書こう。</li> <li>・お礼に何かプレゼントしよう。</li> <li>・座布団を用意しよう。</li> <li>・お茶も出したらいいな。</li> <li>・自己紹介の準備をしておこう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよいあいさつをしよう。</li> <li>・大きな声で目を見て話そう。</li> <li>・お年寄りに合わせて手を引こう。</li> <li>・丁寧にお茶を出そう。</li> <li>・すすんで話をして仲良くなろう。</li> <li>・いろいろな事を教えてもらおう。</li> </ul>	<p>道徳 明るくあいさつ 「おじいさんこんにちは」 2-(1)礼儀</p> <p>道徳 思いやりの心「おじいさんのうしろすがた」 2-(2)親切</p>

<p>4 高齢者と一緒に、干し柿作りをしよう。 (3)(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介をする。</li> <li>・柿のむき方を教えてもらいながら、一緒に皮をむく。</li> <li>・柿をつるす縄を一緒になう。</li> <li>・プレゼントを贈る。</li> </ul> <p>高齢者と進んで上手にかかわろうとし、高齢者のよさに気付いているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を引いて教室まで案内しよう。</li> <li>・相手の目を見て、大きな声で話そう。</li> <li>・丁寧にお茶を出そう。</li> <li>・いろいろな事を教えてもらおう。</li> <li>・お年寄りの方は上手だなあ。</li> <li>・お年寄りの方は優しく教えてくれるから嬉しいな。</li> <li>・プレゼントをととても喜んでくれて、よかったな。</li> </ul>	
<p>5 高齢者とのかかわりを振り返ろう(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高齢者とのかかわりチェック表」を用いて自己評価する。</li> </ul> <p>自分の行動を真剣に振り返ろうとしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちのめあてが守れたよ。</li> <li>・お年寄りの方に喜んでもらえてよかったな。</li> <li>・また、干し柿ができあがったら一緒に食べたいな。</li> </ul>	
<p>6 お礼の手紙と新聞を書こう。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者との交流で気付いたことを新聞にまとめる。</li> </ul> <p>お礼の手紙に、感謝の気持ちを表すことができているか。</p> <p>新聞に、高齢者との交流で気付いたことを表現できているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お世話になったお年寄りに感謝の気持ちを届けたいな。</li> <li>・お年寄りの方のすごいところをいっぱい見つけたよ。</li> </ul>	<p>図工・生活 「クリスマスリースを作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リースをお年寄りにプレゼントしよう。</li> </ul> <p>国語・生活 「年賀状を書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に年賀状を出そう。</li> </ul>
<p>7 お世話になった高齢者を招待し、豚汁を食べていただく会を計画しよう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動をして、会の計画を立てる。</li> <li>◆招待状を書く。</li> <li>◆名札を作る。(自分用・高齢者用)</li> <li>◆分担を決める。(司会、言葉...)</li> <li>◆自己紹介を考える。</li> <li>◆お礼(プレゼント)を考える。</li> </ul> <p>これまでの経験を生かして、高齢者とのかかわり方を工夫しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来上がった干し柿をお年寄りの方と一緒に食べたいな。</li> <li>・今度は自分達がお年寄りにお返しをしたいな。どんなことができるかな。</li> <li>・前よりももっと楽しい会にしたいな。</li> </ul>	<p>学級活動：係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級新聞で学級の様子をお年寄りに知らせよう。</li> </ul>
<p>8 高齢者を招待しよう。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を招待して、干し柿と一緒に食べる。また、学級園で収穫した野菜で豚汁を作って振る舞う。</li> </ul> <p>これまでの経験を生かして、高齢者とよりよくかかわろうとしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りの方と楽しい時間を過ごせたな。</li> <li>・お年寄りに喜んでもらえて嬉しいな。</li> </ul>	
<p>9 高齢者とのかかわりを振り返ろう(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高齢者とのかかわりチェック表」を用いて自己評価する。</li> <li>・お礼の手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだんお年寄りとのおつき合いがうまくなってきたよ。</li> <li>・これからも、もっと交流していきたいな。</li> </ul>	

#### 4 指導上の立場

##### (1) 題材について

本単元は、干し柿作りを通して、地域の高齢者とよりよくふれ合うことをねらいとしている。

全国的に少子高齢化が進む中、有漢地域において、その傾向はより顕著に見られる。したがって、有漢地域の児童においては、今後、地域の高齢者とのかかわり方が非常に重要になってくると思われる。児童には、地域を支えてきた高齢者を敬う心をもてる人間に成長してもらいたい。同時に、児童が成長したときに地域の先人がつくり上げてきた有漢地域をすばらしいと思える心が少しでも育つといいと考える。

干し柿は、甘い食べものが少なかったころの子どもたちの貴重なおやつであり、そこには様々な古人の知恵や技が生かされている。そして、地域の高齢者もそれを受け継ぎ、次の世代に伝えてきた。ものがあふれる今日、干し柿のありがたみは薄れ、生活の中から「ものを大切に作る心」や様々な「知恵」も、消えていこうとしている。身近な地域の素材である干し柿作りを通して、自分たちが浸っている便利な生活の外に、高齢者の知恵や心を感じとってほしい。

##### (2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子2名、女子5名である。明るく、活発な児童が多く、人とのかかわりは比較的得意である。家庭や近所に祖父・祖母がいる家庭がほとんどで、普段から高齢者と接する機会は多い。しかし、自分の祖父母以外とのかかわりは、意外に少なく、近所の高齢者といっしょに話をしたり、何かをしたりしたという経験はほとんどない。学校でも、第1学年の生活科で自分たちの祖父母とのかかわりをもつ機会はあったが、地域の高齢者とのかかわりはほとんどない。

干し柿は、ほとんどの児童が食べたことがあり、好きだと言っている。しかし、干し柿作りについては、ほぼ未経験で、ナイフの扱いも不慣れである。技術的にも高齢者から学ぶことは多いと思われる。

##### (3) 本時の指導

本時は、1回目的高齢者(1名)とのかかわりの経験を生かし、地域の高齢者を「干し柿作り名人」として招待し、いっしょに活動する場面である。

1回目的高齢者との交流を通して、児童は高齢者とのかかわり方について、多くのことに気付いた。本時は、その気付きを生かして、高齢者により上手にかかわることを目標として活動に取り組みさせていきたい。地域の高齢者の集まりに協力を依頼し、児童と高齢者が1対1でかわれるように配慮した。人間関係づくりが若干苦手な児童については、子どもとの対話が得意な高齢者と組み合わせることで、対話がスムーズにできるように配慮したい。

また、干し柿作りを通して、高齢者の巧みな技術(皮剥き、縄ない)や、様々な知恵(縄、干し方)から、高齢者のすごさを感じ取ってほしい。同時に、高齢者の優しい雰囲気を感じ取り、高齢者に親しみの心をもってほしい。

##### (4) 研究主題とのかかわり (体験・交流活動を通し、人権感覚高揚をめざした学習の研究)

高齢者との体験・交流活動を繰り返すことで、高齢者への気付きが深まり、高齢者とのかかわり方について自分自身を振り返ったり、よりよいかわり方を考えたりすることを通して、人権意識を高めていけると考えた。

また、同時に、高齢者との体験・交流活動の中で、高齢者からにじみ出て、自然に心に入ってくる、「優しさ」「穏やかさ」などの雰囲気を感じることで、高齢者をより身近に感じ、敬う心をもつことが、人権感覚の高揚につながるのではないかと考えた。

生活科での学習とともに、道徳では、「礼儀」、「思いやり・親切」、「感謝」の価値を関連付け、人権感覚の高揚をめざし、研究主題に迫っていきたい。

#### 5 本時案

ねらい	1回目交流の気付きを生かして、高齢者により上手にかかわろうとし、干し柿作りを通して、高齢者の良さや知恵のすごさに気付くことができる。	
学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援
1 本時のめあてを確認する。	お年寄りとのかかわり方で、気を付けることを確かめましょう。 ・前の反省を生かして上手にかかわろう。 ・今日は大きな声で目を見て話そう。 ・手を引く場面があったらやってみよう。 ・名札の用意はバッチリだぞ。 ・いすの数もそろっているぞ。	・高齢者とのかかわり方に気持ちがあくように言葉かけをし、自分の目指す姿へのイメージを高めさせる。

お年寄りといっしょに干し柿(つるし柿)を作ろう。  
お年寄りともっと上手にかかわろう。

2 高齢者をお迎えする。

- ・はじめの挨拶(児童)
- ・自己紹介
- ・自分の名前
- ・住んでいる所
- ・祖父母の名前

お年寄りの方を上手にお迎えしましょう。

- ・会議室までお迎えに行ってくるよ。
- ・礼儀正しくご案内しよう。
- ・大きな声で挨拶しよう。
- ・大きな声で、目を見て話すぞ。
- ・お年寄りの自己紹介も、目を見て、うなずきながら聞くぞ。

- ・児童全員が会議室までお迎えに行き、自分の相手を見つけることで、より自然な出会いができるようにする。
- ・人とのかかわりが苦手な児童に付き添い、対話に困るようなら支援できるようにする。

3 干し柿作りをする。  
(1人10個程度)

- ・皮を剥く。
- ・縄をなう。
- ・縄に吊す。
- ・熱湯で殺菌する。
- ・吊り下げる。

お年寄りの方といっしょに、干し柿作りに挑戦しましょう。

- ・途中で疲れたらお茶を用意しよう。
- ・お年寄りの方は上手だな。
- ・わたしも真似をしてやってみよう。
- ・お年寄りの方は優しく丁寧に教えてくれるからうれしいな。

- ・進んで話ができている場合は、教師が話に加わり、話しやすい雰囲気づくりに努める。

- ・高齢者の作業を見るだけにならないように、積極的にやってみるように言葉をかける。

- ・高齢者と上手にかかわれている児童を称揚し、他の児童の模範にする。

4 高齢者の話を聞く。

- ・干し柿にまつわる話を聞き、尋ねたいことを質問をする。

お年寄りの方から干し柿についてのお話を聞きましょう。

- ・昔は甘いものがなくて、干し柿が大事な食べものだったんだな。
- ・昔のおやつはどんなものだったのかな。

- お年寄りの手を見せてもらいましょう。
- ・しわがいっぱいだな。
  - ・優しい手だな。
  - ・力強い手だな。

- ・高齢者の話が難しい場合は、教師が分かりやすく言い換えて伝える。
- ・児童の質問が伝わりにくい場合も同様。

- ・手を触れられそうな雰囲気なら、触れてみるように呼びかける。
- ・いろいろな苦労を重ねたり、作り出してきた手であることを伝える。

5 高齢者を見送る。

- ・お礼の言葉を伝える。
- ・プレゼントを贈る。

高齢者の方をお見送りしましょう。

- ・大きな声で挨拶しよう。
- ・心をこめて作ったよ。喜んでもらえるといいな。
- ・もっと一緒にいたいな。

- ・児童と一緒にいたいという気持ちを大事にし、時間にゆとりをもたせる。

6 活動を振り返る。

お年寄りと上手にかかわれたかな。  
前よりも上手にかかわれたよ。  
お年寄りとのかかわりでどんなことを感じたかな。

- ・お年寄りはすごいな。(皮剥き・縄ない)
- ・お年寄りはとても優しくかったよ。
- ・すごく仲良しになれたよ。
- ・また、会って一緒に干し柿を食べたいな。

- ・ふりかえりシート(児童作成)で、高齢者とのかかわりを振り返らせる。

## 6 研究協議

- ・ 地域の高齢者と十分にかかわることができた。特に、皮むきや縄ないの場面では、肩を寄せ合うようにして教わる姿が見られ、和やかな雰囲気だった。共通の体験をすることで、自然に会話が生まれ、心と心のふれ合いが深まっていったようだ。
- ・ 1回目の高齢者との交流の後、すぐに振り返りをした「気づき」が、今回の交流に生きていた。児童は自分の理想とする姿を思い浮かべながら上手にかかわろうとしていた。そして、素直に喜んでくださる高齢者の姿が児童のやる気を一段と高めていったように思う。
- ・ 名札に児童の曾祖父の名前や大字を書いていたので、会話がスムーズに始められ、効果的だった。
- ・ 皮むき、縄ないと内容が多かったので、後半は児童が疲れてきていたが、ゆったりとした時間を過ごすことができた。
- ・ 高齢者が引き上げた後、片付けを一生懸命する姿が見られた。今日の活動に満足していると感じた。
- ・ 1対1の交流ができたのがよかった。今後も同じ高齢者の方とずっと交流できるとよいだろう。

## 7 成果と課題

### 成果

- ・ 繰り返しかかわる  
地域の高齢者との心地よいかかわりを繰り返すことで、高齢者がもつたくさんの良さを心で感じることができた。また、良さだけでなく、「耳が聞こえにくい」、「目が見えにくい」など、高齢者の抱える多くの問題点にも気づき、自分たちが高齢者にどのようにかかわっていくべきなのかということまで、考えを深めていくことができた。
- ・ 地域の人材・素材を生かす  
地域の高齢者に交流をお願いしたことで、繰り返し交流することが可能になった。実際に会った交流だけでなく、図工の作品を贈ったり、年賀状を届けることも比較的容易であった。また、児童の祖父母の話や、地元の話など共通の話題も弾み、うちとけやすかった。さらに、偶然に道ですれ違ってあいさつを交わしたり、お正月にお年玉を頂いたりした児童もあり、地域の中でも交流が続いた。  
また、干し柿は身近な素材として取り扱いやすかった。高齢者の技能的な良さを披露するにも適切な素材であったと考える。自宅でも干し柿作りに取り組んだ児童や、高齢者に教えてもらった柿の皮を使った昔のおやつを実際に作ってみた児童がいたのも、地域の素材を使ったことの効果であると考えられる。
- ・ 共通の体験をするよさ  
地域の高齢者と1対1で、共通の体験をしたことで、自然に会話が生まれ、心と心の触れ合いを深めていくことができた。体験の場面では高齢者が児童の師となり、技術的にも内面的にも児童を成長させてくださった。高齢者が体を寄せ、手をとって優しく教えたり、児童の心遣いを素直に喜んだりする姿が、児童の心の中の優しさを引き出し、大きくさせたように思う。
- ・ 自分を振り返る  
活動をするごとに、自分を振り返り、「もっとこうすればよかった。」、「こんなふうになりたい（なりたい）」という点を明確にしていたことで、自分自身を高めていくことができた。また、教師が用意した観点でなく、児童たちが話し合っただけで決めた観点で自己評価する形をとったことで、より深く振り返りができたと思われる。評価カードも児童の手書きのものを印刷した。

### 課題

- ・ 人材バンクの作成  
今回の単元では、地域の高齢者に協力をお願いするのに大変な労力を要した。気軽にお願いできる窓口や、高齢者のリスト（どんなことができるか等）があれば有用である。
- ・ 打ち合わせの充実（時間確保）  
地域の高齢者の方との打ち合わせを綿密に行う必要がある。特に児童との組み合わせには配慮が必要である。また、活動の内容だけでなく、授業者の意図を事前に明確に伝えておくことで、高齢者からのかかわり方も、より効果的なものになると考える。
- ・ 年間を通した計画的な交流の必要  
本単元は2学期からのスタートとなったが、1学期から計画的な交流ができていれば、もっと人権感覚の育成に効果が上がったと思われる。